

＜平成23年度事業報告書＞

(概況)

一般社団法人となって初めての通年決算を迎えた。公益目的支出事業も二年目であるが順調に推移しており、東京国体に関する艇やコース等の懸案事項についても見通しを立てることができた。新定款に基づいて執行している業務運営体制についても、事務局体制や連絡会議、本部内会議等の会議体も含め安定してきたところである。東京国体に向け、東京都による選手の育成や、江戸川区による平井地区へのボートの定着については、着実に成果が上がっており、改めて行政当局の強力な支援に感謝するところである。一方、加盟団体や登録選手の減少という市場の縮小については、一地方協会単独の取り組みだけで解決できるものではないが、競技会における種目等の内容を変更してみたものの、市場に適合するには至らなかった。

以上のような背景の中で平成23年度取り組んだ各事業は以下の通りである。

1. 東京国体準備事業

- ・東京国体 PR 事業

前年度から立ち上げた飯田橋や東墨田におけるボートイベントを定着させ、東京国体に向けての PR を図った。

- ・競技システム開発事業

前年度にシステムの構想が固まったのを受け、ソフトの開発に取り組む一方で、競技システムの検証および習熟を図った。

2. 競技開催事業

別紙1の通り競技会を開催した。

3. 普及事業

ボート競技の底辺の堅持と競技人口の増大を目的に、都内各地にボート教室を展開し早10年が経過し、今や「東大島・多摩川・水元・日本橋川・東墨田」の5拠点まで拡大した。一方、競技施設の充実を目的に各関係先に働きかけ「水域・船着場・ボート置場・艇庫」の整備・増設を図った。これらの成果として、全国中学大会等において、小学生や中学生の活躍が見られた。詳細については別紙2の通りである。

4. 強化事業

- ・東京都代表クルーの国体の結果は別紙3の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別紙4の通りであった。
- ・東京国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。